

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

- 課題解決に向けて、学んだ知識・技能を自分の言葉で表現できる授業の実践
- 家庭と連携し、主体的に学習し新たな課題を見つけ学び続けようとする活動の実践

相生小学校  
「学力向上実行プラン」

学力向上検討委員会構成

学力向上推進員	委員	校長・総括	谷 多美子
	教頭・総括補佐	新居 正司	
教諭	教務主任	徳野 千寿	
	研修主任	大建 香織	
	特別支援コーディネーター	前田 智美 森北 涼生 波戸 千聖	

校長  
谷 多美子

◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

【各校の取組状況の把握について】

管理職による授業参観や教員からの報告等、様々な機会を捉えて取り組み状況について把握し、改善を図ったり、効果的な方法を共有したりする。

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○基礎的・基本的な漢字の読み書きや計算問題等の習得に真面目に取り組むことができる児童が多い。 ●基礎的・基本的な学習内容の定着には個人差が大きく、学力の2極化が見られる。語彙力が少なく、文章から読み取る力や学習したことを言葉や文章で表現したり、生活に活かしたりできる力の育成が課題である。	・基礎的・基本的な知識・技能を確実に身につけることができる。 ・話をしている人の方を向き、うなずきながら聞いたりできる。 ・語彙力を増やし、より適切な言葉を用いて話したり、文章を読んだり書いたりすることができる。	・授業やテスト、家庭学習等を利用し、個人のおまじぎを掴み、授業での前時の振り返りを工夫したり、反復学習等を取り入れたりして、学力の定着を図る。 ・話し方・聞き方等の学習態度につながる掲示物等を効果的に活用し、話すスキル・聞くスキル等の定着を図る。 ・話を聞く時、文章を読む時には、共通点や相違点に着目する等のポイントを提示する。	・発達段階に合わせた、話し方のポイントをまとめた掲示等、児童に意識させる工夫を検討する。	・9割以上の学級担任が各学級・教科で個々の児童の実態把握に努め、前時の振り返りの工夫や反復学習を行い、基礎的・基本的な知識・技能の定着をめざして取り組むことができた。 ・言葉に対する児童の意識は高まっていると感じられるが、語彙力を増やす指導の工夫が必要である。	・話し方・聞き方等の掲示物等の効果的な活用が学年間で差異があったので、年度始めに確認、共通理解を行うようにする。 ・学力テストやステップアップテストの結果・分析を活用した授業改善への取組を校内研修で組織的に行う。

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○集会活動等で自分なりの考えや思いを、意欲的に発表できる児童が増えてきている。 ●自分の意見や考えを相手と比べながら考え、よりよい考えにまとめていくことが苦手等、粘り強く思考する児童が少ない	・相手の話を最後まで聞き、自分の意見を理由や根拠を明確にして伝えたり、相手の考えと比較しながら聞いたり、よりよい考えをまとめたりできる。 ・語彙を増やし、自分の思いや考えをより正しく伝えることができる。	・ペア学習やグループ学習等を効果的に取り入れ、自分と相手の意見を比較・関連させて発言できるなど、学び合う姿勢を大切にすること。 ・理由や根拠を明確にした発表ができるように、発表の仕方を定着させる。 ・タブレットやホワイトボード等を効果的に活用して、話し合い活動の充実を図る。	・特別活動の取り組みを他の学習にも生かすようにする。 自分と友達の見解を比較・関連させるということが難しい児童もいるため、発達段階に応じて、例やポイントを示すようにする。	・話合うことや自分の意見を理由や根拠を明確にして伝える事への児童の関心は高まっており、特別活動の研究の成果を授業改善に生かすことができた。 ・ペア学習やグループ学習等の対話的で深い学びに繋がる学習やタブレットやホワイトボード等の学習ツールの活用は8割以上の教員が効果的に活用できた。	・自分の意見を理由や根拠を明確にして伝えるだけでなく、相手の話をよく聞き、相手の意見を受けて、つなげたりまとめたりする力の育成に取り組む。 ・各教科の育てる資質・能力を明確にし、評価と指導の一体化につながる授業研究を計画的にすすめる。

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○決められた課題は、真面目に一生懸命取り組むことができる児童が多い。 ●夢や目標が決まっている児童が少なく、自分のための勉強という意識が弱い。 ●進んで図書室を利用する児童が少なく、本や読書に触れる時間に差がある。	・決められた課題だけでなく、学ぶことに興味や関心を持ち、自ら課題を見つけて計画を立て、主体的に学習に取り組んだり、話し合い活動等を通して学びを広げたり、深めたりする中で、学ぶ楽しさや喜びを感じることができる。 ・学習した内容に関連する本や自分の興味・関心がある内容の本を進んで手に取り読書に親しむことができる。	・児童の主体的な活動や体験の場面に授業に多く設定し、工夫する。 ・「家庭学習の手引き」を活用し、主体的に取り組めるよう自主学習ノートの活用法を示す、児童の自主学習の取り組みを紹介するコーナーを設ける等、意欲を高める工夫をする。 ・朝活「読書」の時間や学習内容に関係ある作者の本や内容の本を紹介する等工夫して読書の推進を図る。	・自主学習コーナーの場所が児童の生活の導線と合っていない部分もあるため、各学級で紹介や掲示を行う。	・半数以上の児童は、自主学習に意欲的に取り組む事ができたが、見通しをもち、計画的に学習を進める力については十分とは言えない。 ・約8割の教師が、読み聞かせや授業に関連する本の紹介など学年に応じて読書の推進を行った。	・「阿波っ子タイムズ」等児童にとって身近で関心のある教材を効果的に活用し、学習の意義と児童の目標とが関連付くように工夫する。 ・読書習慣の定着に向けて、読書推進の取り組みを継続していく。 ・自己有用感や自己指導能力の育成を主体的に学ぶ態度や技能につなげる。

令和5年度 学力向上ロードマップ

